

Gallery Talk 誌上 ギャラリートーク

春の京都から、日本画名品展

会期：2012年4月13日(金)～5月20日(日)



土田麦僊《髪》1911年 京都市立芸術大学芸術資料館蔵

湯上りの女性でしょうか？ 長襦袢姿で髪を整えています。襦袢の袖から露わになった白い腕、髪を梳かすしなやかな指。顔を隠す事で、白い二の腕がより強調され、当時としては、大胆な、匂い立つような官能的な女性の姿です。

描いたのは土田麦僊(つちだばくせん)(1887～1936)。麦僊は佐渡に生まれ、子供の頃から絵が得意で、小学生の頃から自分で作った雅号「北陸」「玉邦」を名乗っていたそうです。京都に出て17歳で竹内栖鳳(たけうちせいほう)に師事し、創設まもない京都市立絵画専門学校に入学、卒業作品として制作されたのが、この作品《髪》です。モデルは、師の栖鳳が東本願寺の天井絵の天女制作の為、東京より呼び寄せた「みどり」と言う女性です。現実の女性を写生しながら、敢えて顔を隠す斬新なポーズを取らせています。初期の作品には栖鳳の影響も見られますが、後には、新しい日本画の創造を目指し、西洋画

を研究します。ゴーギャンやルノワールの影響を受けた作品を描き、34歳で渡欧し、帰国した後は、東洋と西洋の融合から生まれた代表作《舞妓林泉図》を描きました。伝統に捕らわれない新しい日本画を追求した麦僊の様々な挑戦は、若い画家達にも大きな影響を与え、近代日本画の展開に大きな貢献を果たしました。

円山・四条派に始まり伝統文化の息づく古都にあって、独自の作風を築き、西洋画からも学んだ京都画壇の近代日本画。その京都画壇の作品を中心に、横山大観など展覧で活躍した東京画壇の作品もあわせてお楽しみ下さい。春の一日、美しい日本画に酔いしれてみませんか…。

[山上紹代]

すべての僕が沸騰する 村山知義の宇宙

会期：2012年5月26日(土)～7月1日(日)

「毛糸の赤い帽子に、ピロウドのしまズボン、奥さんと同じオカツパさんで、しやなりと踏み出す…」これは本展の作家、村山知義を紹介した雑誌記事の一文です。この記事、大正14年に書かれているというから驚きます！そのファッションは当時としてはかなりモダンで奇抜だったことでしょう。知義は大正末から昭和にかけて、美術、建築、ダンス、舞台美術に演出、と多彩なジャンルで活躍し、自身のファッションと同じく、世間の人々をあっという間に驚かせ、日本の文化全般にあたらしい風を吹き込みました。そして「同じオカツパさん」であった奥さんは、高松市出身の童話作家・村山篤子(かずこ)。知義は19歳の頃、こども向け雑誌に挿絵を描いた事から芸術家人生をスタートさせ、その活動の中で篤子と出会います。そして篤子が文章を書き、それに合わせて知義が挿絵を描くというスタイルで、共作を重ねました。ただし彼らの共作においては、挿絵は単なる文章の添え物という関係ではなく、知義の描く生き生きとした登場人物の挿絵によって篤子の文章に命がやどり、また篤子独特のユーモラスでリズムカルな文章によって知義の挿絵が輝きを増す、というお互いを引き立て高めあう関係にあるものでした。絵本だけでなくアニメ映画にもなった「三匹の小熊さん」は、彼らが生み出した最良の作品といえるでしょう。

今回は篤子との共作絵本を含め、1920年代、知義20歳代の作品を中心に、知義の影響関係を物語る作品や資料、そして晩年に至るまでの多彩な仕事に関する資料などをご紹介する大規模な回顧展です。今も色あせない、村山知義の広大な宇宙を旅してみませんか？

[前田裕実]



村山知義「こぐまさんの家族」1927年

2011

2012

時	記事	活動内容
9/18	★	子どものアトリエ「かくれんぼ仕掛け絵本」(講師:美術家・川崎展子氏)アシスタント★
9/18~10/16	★	「リサとガスパールといっしょに撮影会」(会期中毎日曜・祝日)アシスタント★
9/25	★	ワークショップ「オリジナルキャンドルをつくらう!」(講師:絵本作家・加納果林氏)アシスタント★
10/1		しびの一と24号発行
10/1	★	「舟越桂展」(高知県・香美市立美術館)ほか研修旅行★
11/20	★	子どものアトリエ「ヘンないきものをつくらう!」(講師:美術家・千葉尚実氏)アシスタント★♥
12/10	★	子どものアトリエ「コマ撮りアニメと写真帽子をつくらう!」(講師:写真家・GABOMI氏)アシスタント★♥
12/11	★	ワークショップ「大切な記憶を描く」(講師:美術家・岡田修二氏)アシスタント★♥
12/17	★	ワークショップ「白い世界の舞台美術をつくらう!」(講師:美術家・カミイケタクヤ氏/ダンサー・田中慶子氏)アシスタント★♥
1/29	★	第25回平柳田中賞受賞記念「SPO」小谷元彦(井原市立田中美術館)ほか研修旅行★

★ ボランティアcivi (シヴィ) による活動

♥ 学生ボランティアcimi (シミー) による活動

た。私は撮影を手伝いながら、ふたりが今まで引き起こした数々のいたずらや失敗を思い出していました。あの赤と青のマフラーは、友情の証として交換したそうですね(シリーズ10作目)。撮影会お疲れ様でした!また来



▲撮影会の模様

ようこそ高松へ、リサとガスパール(東京や京都には遊びに来た事があるそうだけど)シリーズ21作目、四国・高松は初めてだったそうですね。撮影会が始まるまでは、ちよっと緊張していたふたりだったけど、ファンみんなの前に登場するのたまち元気がになりました。リサは行動派の女の子と聞いていた通り、いつも手を振って色々なポーズを取ってくれました。ガスパールはおっとりした男の子だから、たくさんの人の前はちよっと恥ずかしかったのかな。ファンのおみなさんは、リサとガスパールと一緒に何枚も写真を撮る事ができる事ができて大満足な様子でした。

三好ひさ子

★ 「リサとガスパールといっしょに撮影会」アシスタントをして



▲参加者の作品

夫して色々な動きを絵に与えて「仕掛け」を楽しみました。それは同時に一枚の絵に物語を与えているように感じました。子ども達は工夫して色々な動きを絵に与えて「仕掛け」を楽しみました。それは同時に一枚の絵に物語を与えているように感じました。子ども達は工夫して色々な動きを絵に与えて「仕掛け」を楽しみました。それは同時に一枚の絵に物語を与えているように感じました。

★ 「かくれんぼ仕掛け絵本」アシスタントをして

講師の川崎展子(かわさきのぶこ)さんは香川在住の美術家で、ワークショップのベテランです。「仕掛け絵本」とは、ページにあるタブを引くと、絵が動いたり飛び出したりする「仕掛け」のある絵本のことです。今回は一枚の画用紙に描いた絵に「仕掛け」をつきました。細長く切った画用紙の先に、例えば鳥などの絵を貼付けて、背景を描いた画用紙に差込みます。差込んだ端を動かすと、鳥が飛んでいるようになりま

★ 「舟越桂展」ほか研修旅行を終えて



▲加納果林氏

「堀本真弓」

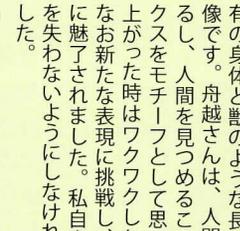
秋の研修旅行は「絵金祭り」で有名な土佐赤岡町の「絵金蔵」から始まりました。絵金とは「絵師金蔵」の略です。彼は狩野派に学び、土佐藩家老の御用絵師まで務めましたが廣作事件に巻き込まれ、城外追放になりました。その後は赤岡に定住し、酒蔵をアトリエにして絵を描きました。その芝居蔵を保管しているのが「絵金蔵」です。入り口で手渡された提灯の灯りを頼りに、お化け屋敷に入る気分が進みますと歌舞伎芝居の屏風が灯りに浮かび上がります。原色も鮮やかに血の海、生首、亡霊等の臨場感あふれる芝居の場面が描かれています。おどろおどろしい光景にぞっとしながらも、その迫力に圧倒されて絵に引き込まれてしまいました。野に下った絵金は、怨念とともに大衆のために思う存分腕を振るったのでしょうか。絵金蔵を訪問後は、高知の新名所?とも呼ばれる「ゆず庵」での昼食、ネコバス、アフリカ象を迎えられ、店内のオブジェとおいしい料理に満足して午前の予定は終了しました。

「富岡洋子」

★ ワークショップ「オリジナルキャンドルをつくらう!」アシスタントをして

講師の加納果林さんは愛媛県今治市で絵本作家として活躍中です。天使みたいに可愛いお姉さんです。今回は小さなガラスを使ってオリジナルのキャンドルホルダーを作るワークショップです。果林さんの用意したお手本は、彼女の絵本のキャラクター達をキャンドルホルダーに変身させたものでした。とても愛らしく、それを見て子ども達もマル気満々です。ガラスの周りを粘土や絵の具でデコレーションし、中にLEDのキャンドルライトを入れ

★ 「子どもアトリエ」ヘンないきものをつくらう!」アシスタントをして



▲オープニング式典であいさつする舟越桂氏。

「皆見礼子」

美術館の二階の特設展示スペースで、千葉尚実さんの個展が行われている中、ワークショップが行われました。今回のワークショップは開催時間中に自由に参加して、自分が納得したところで終了するというスタイルです。色付きの樹脂粘土で、自分の作ったヘンな生き物を形成して、オープンで焼いてスタンプを作るコーナー。広告や雑誌を切り抜いて、画用紙にコラージュして、ヘンな生き物をつくるコーナー(野菜や肉を巧みに使った面白い作品がありました)。千葉さんの作品をワークショップを手がかりに鑑賞してまわるコーナー。と盛りだくさんです。千葉さんのヘンな生き物は一見気持ち悪いけど、どこかカワイイというか、愛着の湧くものでした。よくよく見たり聞いたりすると、発想の原点は実際の事件や出来事だったりするの面白いところ。参加した子どもや大人の皆さんは、そんな作品に触発され、ヘンな生き物づくりに没頭し、思い思いの時間を過ごしていました。

「田中えり子」

は楠を使い大理石の目をはめ込んだ独特の人物像が立ち並び、昔から知っている人に会ったような懐かしさを覚えました。遙か遠くを見つめ、静かな気品をためた独特の存在感が漂う空気感。あの時のままでした。近作の《遠い手のスフィア》は今度と違いう雰囲気です。両性具

★ 「子どもアトリエ」コマ撮りアニメと写真帽子をつくらう!」アシスタントをして

講師のGABOMIさんは香川在住の女性

写真家。カッツイイお姉さんです。今回のワークショップは盛り沢山。午前中は「コマ撮りアニメ」の撮影です。子供達全員で隊列を組み、一歩動く毎に1回撮影の繰り返し。場所は収蔵品専用エレベーター内部、階段、エントランスホール。GABOMIさんの指導の下、約2時間の撮影は子供達の連続だったと思います。午後からは「転」写真帽子を作ろうというです。まず紙でシルクハットを作ります。帽子の飾りには子供達が持参したスナップ写真や、当日GABOMIさんに撮ってもらった自分の写真を切抜いて、立体的に貼付けました。自分の分身のような写真帽子の出来上がりです。そしてクライマックスはお茶会です。



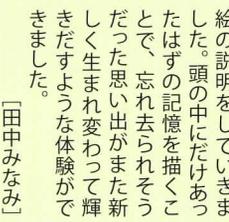
▲コマ撮りアニメ撮影風景

BGMも挿入。1本の映像作品に仕上げました。時間も決してわずか1分少々ですが、皆で何度も鑑賞して楽しめました。「写真」とは、「一期一会の記録だ」と感じた一日でした。 [堀本真弓]

★ワークショップ「大切な記憶を描く」アシスタントをして

時間は過ぎてしまっても、大事な思い出や光景は頭の中に残っているはず。そんな大切な記憶を描きました。講師はモノクロで描かれた当館収蔵品『水辺33』の作者、岡田修二先生です。午前中は、岡田先生独自の記憶をキーワードにした絵画論のレクチャーを聞き、午後はA4サイズの画用紙に黒い木炭、鉛筆を使ってそれぞれの記憶を描き出しました。皆さん、記憶だけを頼りに描くことは勇気がいるようでしたが、岡田先生に丁寧に話を聞いてもらううちに、自然と手も動きだしたようです。最後に、完成した絵はプロジェクターで大きく映し出され、一人一人が自分の描いた絵の説明をしていきました。頭の中にだけあったはずの記憶を描くことで、忘れ去られてしまった思い出がまた新しく生まれ変わって輝き出すような体験ができました。 [田中みなみ]

▲岡田修二氏によるレクチャー



★「白い世界の舞台美術をつくらうー!」

クリスマス前の日にトナカイのそりでやってきたサンタはなんと家の前で犬に吠えられ、石につまづき部屋に入ったものの役目を忘れてTVをみたり、つまみ

食いしたり、やっし子供たちのことを思い出して手紙を読み、プレゼントを置いて帰っていくーこれはワークショップに参加した全員で作ったサンタのお話です。この話を脚本として舞台美術の制作、設営等々指導してくれたのがアーティスト・カミイケタカヤさん。舞台は全て白い色で表現するというのが、カミイケさんからの提案でした。舞台に必要な道具、小道具をどんな風に「白」で作るのか?用意された日用品や廃材を白い布でくるんだり、覆ったりしてトナカイ、そり、ツリ、犬小屋、石など、どんな制作をしていきました。そして出来上がった舞台でダンスー田中慶子さんが、みんながイメージした「やたらと転んでちよつとほけたサンタ」をダンスで表現してくれました。最後の場面は参加者全員が舞台上立ち、紙ヒコキを飛ばして締めくくりました。脚本、舞台製作、舞台発表すべてを体験できた一日でした。 [三好ひさ子]



▲ワークショップで製作した舞台で踊る田中慶子氏。

★「第25回平櫛田中賞受賞記念」田中美術館「ほか研修旅行を終えて」

JR高松駅を8時に出発、2時間かけて田中美術館に到着。1階に小谷氏の作品が並べられており、昨年の6月に、高松市美術館で開催された「小谷元彦展」に展示された作品に再会を果たしました。初めて見る「Sea II」は、2mを超す大作で、正面からは女性が折ついている姿に見えるますが、横から見ると、顔の前に置かれた両手の親指を、開いた目に突き刺しているようにも見えて、不思議なポーズの女性像でした。この作品をじっくりと見ていると、想像にも見えてきて、見るということとは視覚機能を使うことではなく、心で感じ取るものではないのか?というメッセージを小谷氏が発しているように思えてきました。2、3階は、過去の受賞作家の作品や、平櫛田中本人の作品が並べられていて、彫刻好きにはたまらなく、見応えのある美術館でした。昼食後、「国吉康雄展」が開かれていて、ふくやま美術館に向かいました。国吉康雄をモデルにした映画製作が企画されており、映画監督、五十嵐匠氏の講演会を聴いた後、作品を鑑賞。多くの作家がパリを目指した時代に、アメリカに渡った国吉は、太平洋戦争という大きな時代のうねりも、翻弄されたながらも、国吉の軍国主義を批判し続けた日本人でした。戦前戦後を通じてアメリカで活躍した作家、国吉康雄が、どのように映画化されるのか楽しみです。 [植井真由美]



▲田中美術館の前で記念撮影するciviメンバー。

のうねりも、翻弄されたながらも、国吉の軍国主義を批判し続けた日本人でした。戦前戦後を通じてアメリカで活躍した作家、国吉康雄が、どのように映画化されるのか楽しみです。

こたつの夢「小企画・千葉尚実展」を開催して

2011年10月18日(火)～11月27日(日)当館中2階にある休憩スペースにおいて、香川大学教育学部との連携企画「小企画・千葉尚実展」が開催された。きっかけは、私と他の学芸員(川西弘一、毛利直子)が香川大学教育学部の集中授業「博物館学II」を依頼されたことに始まる。この授業は美術館の諸活動(収集、保管、展示、教育など)を学芸員資格取得を目指す学生に講義するもので、私はそのうち「展示」のパートを担当したが、座学よりも、実際に自分たちで展覧会企画に参画し、展示作業もしてもらったほうが彼らにとって面白く、為になるかと思い、学生とともに展覧会を作り上げた本企画を立ち上げたのであった。展覧会の中身はなるべく学生とともに決めたいが、時間的制約から、会場、場所、出品作家など基本条件是美術館サイドで事前に決めた。会期は前述のとおり、授業終了後1ヵ月半程度。展示場所は他に使える場所がなく、消去法の中で2階休憩スペースに決定。また出品作家は、お兄さん・お姉さんのような感覚で学生が慕うことのできる若手作家が適当と思われ、近年、香川県内を中心に意欲的に絵画やインスタレーションを発表している千葉尚実さんをお願いすることにした。千葉さんは、「おしん」や「ミミズ」など、自身が嫌いな不気味なものをあえて取り上げ、ポップでカワイイ存在へと転化させるユニークな作品づくりをしている。



▲学生が製作したチラシ。千葉氏(右)は会期中ふらりとやって来て、このこたつで来館者がノートに書いた生き物を表す架空の漢字を Cuttingシートから切りぬき、周囲の壁に貼っていった。

授業が始まるまでにまず千葉さんに会場の下見をもらい、展覧会の大まかなアイデア、方向性を考えてもらった。会場は以前映像鑑賞ブースが3基設置されていたが、撤収後はベンチが置かれ休憩スペースとして使われている、美術館の中の「空き地」のような空間である。空調や照明のコントロールが効かず、作品を掛ける壁もない、展示には全く不向きな場所である。下見から数日後、千葉さんは会場に「こたつ」を置き、来場者にはそこに座って作品鑑賞してもらうのはどうかーという、いい具合に力の抜

けた、魅力的な提案をしていただいた。ドラえもん空き地に土管があるように、美術館の空き地にこたつがあるーとてもワクワクする設定であった。

授業ではまず、千葉さんに自作をスライドで説明していただき、その後みんなで「こたつ」を囲み、千葉さんの作品をどこにどのよう展示するかを話しあった。次に20人いる学生を4つの班に分け、班ごとに展示パートを決め、そのパート内の展示作業をもらった。また同時に、各班にはチラシ、キャプション、パンフレット製作などの役割を与え、その作業もこなしてもらった。そして90分×6コマの時間内に、なんとか展覧会の企画から展示作業、そして展示用小道具の製作までを、急ぎ足ではあるが、体験してもらい、展示が出来上がった。ひっそりと開催された展覧会ではあったが、アート好きの若者を中心に好評をいただいた。

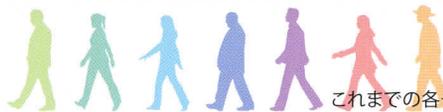
当初から、基本的に学芸員が1人で責任を持って行なう展覧会企画という作業を、大人数が協力して行うことに無理があり、また果たしてそうすることに意味があるのだろうか、という疑問もあるにはあった(じつ学生からそのような問題提議もあった)。しかし、強引にはあるが、展覧会の開催に際して学芸員が行なうことを一通り体験してもらうことで、博物館学の教科書を読むだけでは得られないなまな学習ができ、また学芸員の仕事の醍醐味である「展示する喜び」を幾分かは感じてもらったのではないかと思う。その喜びが原動力となって将来学芸員を真剣に目指す学生が現れたなら嬉しいことである。



▲大量の《ミミズ》(作品)に両面テープを貼る学生。



▲陶芸作品《盆栽の人》に添える植物を思案する千葉氏と学生。



しびのーと 25号記念! これまでの歩み(前編)

これまでの各号の主な見出しを列記し、「しびのーと」とボランティア・グループcivi(シヴィ)の活動の変遷を振り返ります。まずは1号から12号まで。(バックナンバー閲覧希望の方は美術館図書室までお申し出ください) [編・牧野裕二]



1号(2000年10月) 表紙の笑顔と掌は、ボランティア研修講師・福のり子さんの写真がもとに！
 創刊のあいさつ／主な活動(1999.1~2000.8) ボランティア養成講座はじめてのギャラリートーク(以下GTT)と表記 ほか／アートなんてこわくない！福のり子さんのレクチャーから／civiが見た！高松市美術館コレクション(1)マルセル・デュシャン「エッソ」／知ったか？美術館(1)エントランスホール

2号(2001年4月) 生卵が割れ落ちる瞬間を実際に撮影し、上田薫の絵画の存在感の強さを再認識！
 誌上GTT「印象派展フランス・アメリカ」／主な活動(2000.8~2001.3) 小沢剛に話を聞く、岡山県美・高知県美鑑賞旅行ほか／アートに話を聞く、岡山県美・高知県美鑑賞旅行ほか／アートに話を聞く、岡山県美・高知県美鑑賞旅行ほか／アートに話を聞く、岡山県美・高知県美鑑賞旅行ほか／アートに話を聞く、岡山県美・高知県美鑑賞旅行ほか

3号(2001年8月) この号より文章が増えたため文字が小さくなり、「情報量の充実」と「読みやすさ」を巡る葛藤が始まる！
 誌上GTT「池田満寿夫展」池田満寿夫著『男の手料理』紹介／主な活動(2001.4~5) 成羽町美鑑賞旅行ほか／おしゃべりタイム「匿名座談によるワークショップ」振り返り／ヴェネツィア・ビエンナーレ雑感／civiが見た！高松市美術館コレクション(3)北岡省三「彫漆短冊箱碧麗」／知ったか？美術館(3)ハイビジュニアター

4号(2001年11月) 研修旅行で気温37度を越える真夏の直島を訪れ、現代アートを満喫！
 誌上GTT「コトコト展」／突撃アートの晩ごはん(1)アルチンボルド「肉の皿」／コックの顔／主な活動(2001.8~10) 直島探訪記ほか／civiが見た！高松市美術館コレクション(4)福田美蘭「侍ダグニヤ」／コンドルス高松スペシャル公演上陸目前！／知ったか？美術館(4)展示会の準備

5号(2002年4月) 版画作品をトークする際の勉強として銅版画を学ぶ自主ワークショップを実施！
 誌上GTT「フルター」ユの海と空展」／突撃アートの晩ごはん(2)高橋由「鮭」／主な活動(2001.11~2002.3) 版画ワークショップほか／civiが見た！高松市美術館コレクション(5)森村泰昌「肖像(アタ・ゴッホ)」／子どものためのギャラリーツアー／知ったか？美術館(5)常設展示室

6号(2002年10月) 香川県文化会館で個展を開催中の高松市出身の画家・川島猛氏に突撃インタビュー！
 誌上GTT「コトコト展」コアンジェ美術館展」／突撃アートの晩ごはん(3)「酒飯論絵巻」／主な活動(2002.4~5) 10/2002年美術館上半期回想／civiが見た！高松市美術館コレクション(6)西村陽平「伝道書の書」／川島猛インタビュー／知ったか？美術館(6)図書室

7号(2003年4月) 新(2期)メンバー加入！シヴィの活動の多様化に対応。
 誌上GTT「鉄腕アトムの軌跡展」／突撃アートの晩ごはん(4)岡島領「ヌードル・ボーイ」／ヌードル・ガール／主な活動(2002.10~2003.3) 鑑賞旅行京都編、新しい仲間を迎えてほか／civiが見た！高松市美術館コレクション(7)飯田善国「十面体」／鑑賞つてなあれ？／知ったか？美術館(7)作品の保管と修復

8号(2003年10月)
 後藤朝子氏工房を訪れ、人形創作の秘密にふれる。
 誌上GTT「モリス・ドニエ」舟越桂展」／突撃アートの晩ごはん(5)ヘレン・チャンドウィック「カカオ」／主な活動(2003.2~5) 2期メンバー養成講座および初トーク、後藤朝子さん工房を訪ねて／civiが見た！高松市美術館コレクション(8)篠原有司男「モーターサイクルツイステッド」／美術館日記／ヴェネツィア・ビエンナーレを訪ねて／知ったか？美術館(8)貸し施設

9号(2004年4月)
 舟越桂氏の作品と人柄に魅了される。
 誌上GTT「ピッコオの世界展「わざの美」」／突撃アートの晩ごはん(6)うどん／美術館日記／主な活動(2003.10~2004.3) 北岡省三氏漆芸ワークショップほか／civiが見た！高松市美術館コレクション(9)奈良美智「MISSE」／舟越桂展をふりかえってワークショップと遠隔授業／知ったか？美術館(9)看視員と受付(前半)

10号(2004年11月) 新(3期)メンバー加入！強力なワークショップサポート部隊が結成される。
 誌上GTT「ミューシャ展」／主な活動(2004.4~9) 新しい仲間を迎えてほか／美術館への橋渡し／civiが見た！高松市美術館コレクション(10)田中敦子「電気服」／突撃アートの晩ごはん(7)アンディ・ウオーホル「キャンベル・スープ」／美術館日記／知ったか？美術館(10)看視員と受付(後半)

11号(2005年4月) 「NEWボランティア用語辞典」(学研2005年)にシヴィのトーク風景の写真が掲載される！
 誌上GTT「グレート美術館名品展」藤城清治の世界展」／突撃アートの晩ごはん(8)レオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」／主な活動(2004.9~2005.3) 鑑賞旅行神戸編ほか／civiが見た！高松市美術館コレクション(11)依田順子「Attached」／美術館日記／3期生1年の活動を振り返って！／知ったか？美術館(11)旧高松市立美術館

12号(2005年11月) 中学生、先生、シヴィらによる教育普及プログラム「まるごと探偵クラブ」開催！
 誌上GTT「ジェームズ・アランソール展」／突撃アートの晩ごはん(9)野うさぎ料理／主な活動(2005.3~5) 大塚国際美術館研修旅行ほか／civiが見た！高松市美術館コレクション(12)パウル・クレイ「網渡り」／美術館日記／真野響子氏来館、まるごと探偵クラブ開催、わき役のひとりごと。(1)アイディゴ・ベラスケス「ラス・メニーナス」／美術館日記



ご案内

美術館ボランティア「civi(シヴィ)」によるギャラリートークは、特別展会期中の毎日曜日および祝日の午前11時~午後2時~の1日2回、2階展示室にて行います。

私たちと鑑賞をご一緒にしませんか？

- 赤岡は、どこか懐かしさを感じさせる町でした。7月の絵金祭りにぜひ行きたい！[富岡洋子]
- 岡山の平橋田中美術館での小谷元彦展オープニングに行ってきました。初めて見る作品もありました。感激しました。作家本人にも会えました。女性ファンにモテモテでした。[堀本真弓]
- 先日、栗林公園に梅を観に行きました。小春日和の青空と紅梅、なんとも幸せな彩りでした。[前田裕実]
- 東日本大震災から早や1年が経とうとしています。被災された方々のご苦労は、言葉では言い表せないものでしょう。しかし決して希望を失わないで！と言いたい。[横井真由美]
- 寒さ厳しい頃に咲く、臘梅の花を生けています。淡い黄色の可憐な花が、甘い香りを放っています。花言葉は慈愛だそうです。香りに癒されながら春の到来を待ちわびています。[皆見礼子]

編集後記

- 「白い世界の舞台」のトナカイは実は自転車。ツリーは工事現場のコーン。アイデア次第で舞台をうまく表現できました。[三好ひさ子]
- 陶芸家「河井寛次郎記念館」：創作の場でもあり、生活の場でもあったそこは、隅々まで寛次郎の美意識で設えられており、温もりのある調度品と共に心地よく、白で作られた椅子に座れば至福の時が流れる。[山上紹代]
- 当館にも巡回する「村山知義の宇宙」展が2月11日葉山で開始。出品点数約800点のまさに宇宙のような展示を丹念に見たら何時間かかるのでしょうか？私は高松出身の童話作家で妻の薫子との共作絵本の草を担当しましたが、可愛い童画が並ぶこのコーナーはつかの間の癒しの空間と化していました。当館で「宇宙」を果たしてきちんと展示できるか不安この上ない今日この頃です。[高松市美術館学芸員 牧野裕二]